

ガラスバッジによる個人積算線量測定について

1 測定スケジュールについて・・・別紙のとおり

2 高い線量が出た場合の追跡調査について

栃木県は、追跡調査を実施していないが、那須塩原市は他者に比べ高い数値が出た場合は市独自に追跡調査を実施することとする。

- ① 1.0ミリシーベルト以上を調査（福島県二本松市は1.5以上を実施。）
- ② 行動記録調査からの追跡
- ③ 自宅周辺及び自宅室内の空間線量の調査（シンチレーションサーベイメーター）
- ④ 原因究明のための、関係機関へ照会の個人情報取得の保護者への説明と承諾書の受領
- ⑤ 市アドバイザー鈴木 元 先生へ総合的判断の依頼
- ⑥ 黒中で1名（3.1 m Sv）、東小で1名（1.7 m Sv）の2名を追跡調査する。

3 個人線量計測定結果報告書様式について・・・別紙のとおり

- ① 基本的に栃木県と同じ様式とする（県了解済み）
- ② 評価については、
「那須塩原市放射能対策アドバイザー（鈴木 元 先生）からの評価」とし、鈴木先生からの評価を記入することとする。（鈴木先生の氏名使用了解済み）
- ③ 結果報告書には市長名の添書及び放射能の対する注意点等のパンフレットを同封する。
- ④ 小中学校については9月25日付けて児童生徒を通じて行う。
- ⑤ 子ども課については、結果集計後速やかに行う。

4 調査結果の集計表について・・・別紙のとおり

- ① 集計表の作成は、学校教育課及び子ども課のそれぞれで現有予算の中からの予算流用で対応する。
- ② 集計表は詳細について行うが、公表については、本部会議で了解されたものを公表するものとする。

5 調査結果報告会について

- ① 市アドバイザー鈴木 元 先生に依頼し、那須塩原市としての調査結果報告会を実施することとする。（鈴木 元 先生に協議する。）
- ② 開催時期は、小中学校については、11月頃、子ども課については3月頃に開催を予定。
- ③ 小中学校及び保育園幼稚園の全体集計の報告会は、平成25年度当初に行う予定とする。

ガラスバッチによる個人積算線量の測定スケジュール(案)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①ガラスバッチ個人線量測定 ◇小中学校 対象児数: 同意児数: :6,960人 同意率 :	説明文書配布 同意書提出		(5月中旬～7月中旬) ガラスバッチ線量計による 測定			(7月中旬～8月) ・測定結果データ作成 (千代田テクノ) ・個人結果書作成 (学校教育課)		(9月25日) 測定結果の通知 (学校を通して通知)				
◇市外の学校に通学 対象児数: 207人 同意児数: 83人 同意率 : 40.1% ◇未就学児(0～5歳児) 対象児数: 6,781人 同意児数: 4,604人 同意率 : 67.90%		説明文書配布 同意書提出				(9月上旬～11月上旬) ガラスバッチ線量計による 測定		(11月上旬～12月) ・測定結果データ作 成(千代田テクノ) ・個人結果書作成 (千代田テクノ)		12月 測定結果の通知 ・児童生徒:学校教育課より郵送 ・就園児:園を通して通知 ・在宅児:子ども課より郵送		
②追跡調査 測定結果が1.0以上出た人 を対象に実施 (行動記録票精査、空間線量 測定等)						追跡調査			追跡調査			
③測定結果の集計・分析・評価						集計は学校教 育課で実施 ・学校別 ・地区別	小中学校の 分析・評価 (学校教育 課で委託業 務)				保育園幼稚 園の分析・ 評価(子ども 課で委託業 務)	全体の集計・ 分析・評価 (健康対策P T)
④結果報告会								結果説明会				結果説明会

役割分担(案)

内 容	担 当
ガラスバッチ個人線量計測定、結果書送付、集計	学校教育課、子ども課
測定結果の分析・評価	学校教育課、子ども課での委託業務
結果説明会、講演会、市の放射能対策	危機対策室、関係プロジェクトチーム、関係課

個人線量計測定結果報告書

平成 24 年 9 月 25 日 那須塩原市

所 属：〇〇小 〇-〇

氏 名：〇〇 〇〇

使用期間：2012-05-21 ~ 2012-07-20

あなたの測定結果について、下記のとおり御報告いたします。

□測定結果

今回の測定 2 か月間にあなたが受けた追加外部被ばく線量は、

_____ ミリシーベルト未満

今後、1 年間 (12 か月) に受ける追加外部被ばく線量は、

_____ (2 か月) × 6 = _____ ミリシーベルト未満と推測されます。

追加外部被ばく線量は、2 か月間の累積被ばく線量から、大地及び宇宙線の一部の自然放射線分(2 か月で 0.09 ミリシーベルト)を差し引いた線量です。

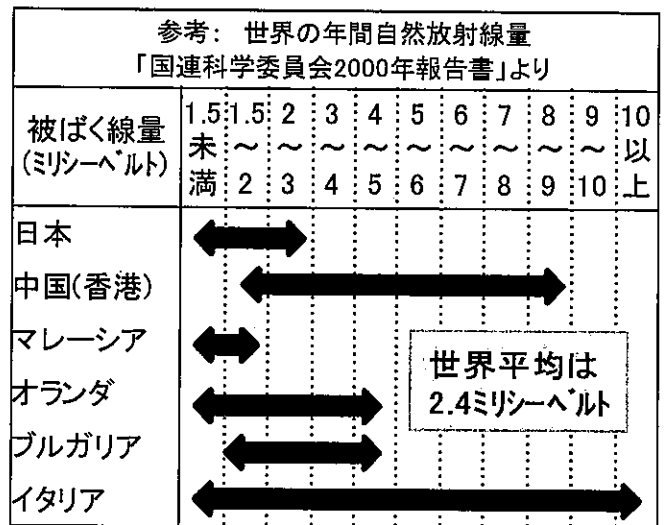
□那須塩原市放射能対策アドバイザー*からの評価

*鈴木 元 (国際医療福祉大学教授 国際医療福祉大学クリニック院長 放射線疫学専門)

現時点における科学的知見などからは、今回の結果は、健康への影響が懸念される値ではないと判断します。

- ・福島第一原子力発電所事故前の年間被ばく線量(宇宙線、大地、食物、ラドン等の自然放射線量)は、年間約 1.5 ミリシーベルトでした。今回の個人線量計の測定結果から、今後の年間被ばく線量 (追加外部被ばく線量と事故前の年間被ばく線量) は 2~4 ミリシーベルト程度と推測できます。
- ・あなたの今後の年間被ばく線量は、以下のとおりに推測されます。

あなたの測定結果 (追加外部被ばく線量 2 か月間分) 単位：ミリシーベルト	推測される今後の年間被ばく線量 追加外部被ばく線量(左欄×6) +事故前の年間被ばく線量(1.5) 単位：ミリシーベルト
0.1 未満	2.1 未満 (0.6 未満+1.5)
0.1	2.1 (0.6+1.5)
0.2	2.7 (1.2+1.5)
0.3	3.3 (1.8+1.5)
0.4	3.9 (2.4+1.5)

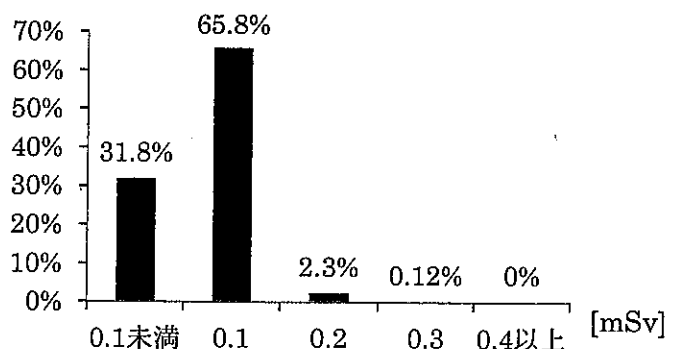


- ・今後、環境中の放射性物質は、物理学的半減期による減衰や除染、風雨などの自然要因による風化等により減少するため、追加被ばく線量は時間とともに低下していくと考えられます。

外部被ばく線量 測定結果

今回の測定は、市内の小中学生 6,878 人に実施しました。

全体の線量分布(2 か月間)は右図のとおりです。



個人線量計測定結果報告書

平成 24 年 9 月 25 日 那須塩原市

所 属 : ○○小 ○-○
 氏 名 : ○○ ○○
 使用期間 : 2012-05-21 ~ 2012-07-20

あなたの測定結果について、下記のとおり御報告いたします。

□測定結果

今回の測定 2 か月間にあなたが受けた追加外部被ばく線量は、

_____ミリシーベルト

ただし、医療被曝による線量を含みます。

追加外部被ばく線量は、2 か月間の累積被ばく線量から、大地及び宇宙線の一部の自然放射線分(2 か月で 0.09 ミリシーベルト)を差し引いた線量です。

□那須塩原市放射能対策アドバイザー*からの評価

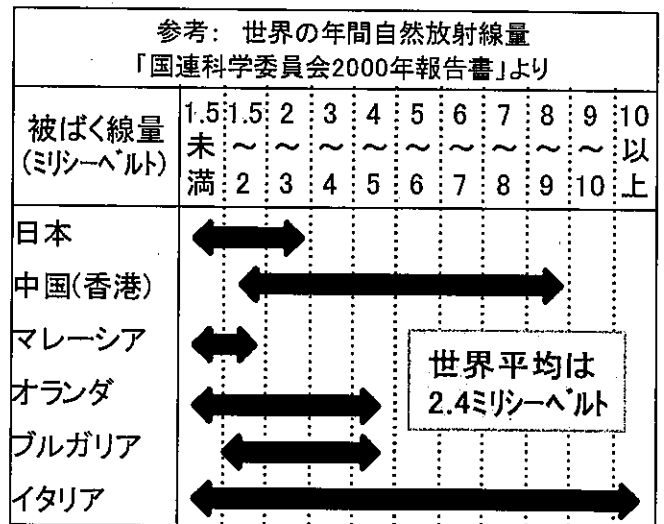
*鈴木 元 (国際医療福祉大学教授 国際医療福祉大学クリニック院長 放射線疫学専門)

医療被ばくがあるため、正確に評価できておりません。

参考までに、同じ学校のお子さんの測定結果は_____未満~_____で、推測される今後の年間被ばく線量は_____未満~_____でした。

- 福島第一原子力発電所事故前の年間被ばく線量(宇宙線、大地、食物、ラドン等の自然放射線量)は、年間約 1.5 ミリシーベルトでした。今回の個人線量計の測定結果から、今後の年間被ばく線量(追加外部被ばく線量と事故前の年間被ばく線量)は 2~4 ミリシーベルト程度と推測できます。

あなたの測定結果 (追加外部被ばく線量 2 か月間分) 単位: ミリシーベルト	推測される今後の年間被ばく線量 追加外部被ばく線量(左欄×6) +事故前の年間被ばく線量(1.5) 単位: ミリシーベルト
0.1 未満	2.1 未満 (0.6 未満+1.5)
0.1	2.1 (0.6+1.5)
0.2	2.7 (1.2+1.5)
0.3	3.3 (1.8+1.5)
0.4	3.9 (2.4+1.5)

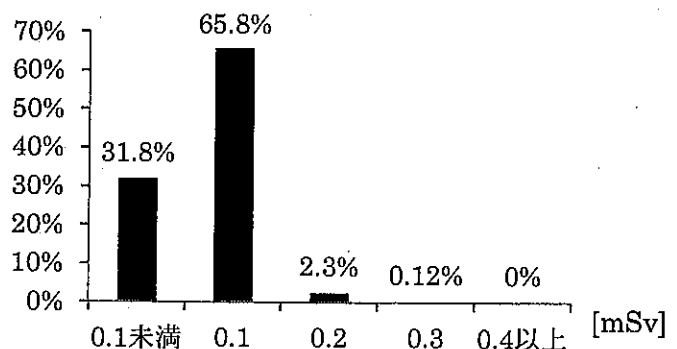


- 今後、環境中の放射性物質は、物理学的半減期による減衰や除染、風雨などの自然要因による風化等により減少するため、追加被ばく線量は時間とともに低下していくと考えられます。

外部被ばく線量 測定結果

今回の測定は、市内の小中学生 6,878 人に実施しました。

全体の線量分布(2 か月間)は右図のとおりです。



個人線量計測定結果の集計報告書(案)

対象者 小・中学生、就学前乳幼児、区域外就学児

1. 個人線量計着用期間(配布、回収日)

小・中学生	配布日	月	日	回収日	月	日	概ね2か月
就学前乳幼児	配布日	月	日	回収日	月	日	概ね2か月
区域外就学児	配布日	月	日	回収日	月	日	概ね2か月

2. 個人線量計配布結果

対象者数	対象者数(人)	配布数(人)	配布率(%)
就学前乳幼児(保育施設児童)			
就学前乳幼児(在宅保育児童※)			
小学生			
中学生			
区域外就学児			
合計			

※市外の保育施設入所児童を含む

3. 個人線量計回収結果

対象者数	配布数(人)	回収数(人)	回収率(%)
就学前乳幼児(保育施設児童)			
就学前乳幼児(在宅保育児童※)			
小学生			
中学生			
区域外就学児			
合計			

4. 積算線量人数、割合(総括表)

積算線量(mSv)	人	割合(%)
0.1未満		
0.1		
0.2		
0.3		
0.4		
0.5		
0.6以上		
合計		

5. 対象者別結果(総括表)

(mSv)

対象者数	人	最頻値	最低値	最高値
就学前乳幼児(保育施設児童)				
就学前乳幼児(在宅保育児童※)				
小学生				
中学生				
区域外就学児				
合計				

9. 施設等別、年齢・学年別調査結果分布人数

(1) 就学前乳幼児

(人)

施設名	年齢・学年	2か月間の積算線量実測値(mSv)の分布人数								最頻値(mSv)
		0.1未満	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6以上	計	
〇〇 保育園 等 (計38 施設+ 在宅保 育児 童)	0歳児									
	1歳児									
	2歳児									
	3歳児									
	4歳児									
	5歳児									
	全体									

(2) 小学生

(人)

施設名	年齢・学年	2か月間の積算線量実測値(mSv)の分布人数								最頻値(mSv)
		0.1未満	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6以上	計	
〇〇 小学校 (計25 校+市 外小学 校)	1年生									
	2年生									
	3年生									
	4年生									
	5年生									
	6年生									
	全体									

(3) 中学生

(人)

施設名	年齢・学年	2か月間の積算線量実測値(mSv)の分布人数								最頻値(mSv)
		0.1未満	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6以上	計	
〇〇 中学校 (計10 校+市 外中学 校)	1年生									
	2年生									
	3年生									
	全体									

異常値者の測定状況 ⇒ 別紙のとおり